

銅・アルミ

市況見通し

8月

銅

6月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で10・0%増の5万8310ト。前年同月比で2カ月ぶりのプラスとなった。

6月の銅電線出荷量（推定値）は同4・6%増の5万1千ト。銅輸出は、電気銅が同19・7%減の5万2

993ト、銅スクラップが同24・8%増の3万3223ト。銅輸入は、電気銅が同88・2%減の27ト、

銅スクラップが同79・1%増の3万4079トだった。

銅スクラップ景況予想

8月の銅スクラップ需給は世界的にはやや供給過剰にある。このため米国・中国など主

要地域では関税・政策の影響により、需給が歪む可能性がある状況とみている。

LME銅・為替予想

LME銅相場は強いと予想する。在庫逼迫・供給制約に関しては、米国以外の地域で供給が逼迫し、供給余力が限られる。これにより、価格上昇圧力が強まる構造。中央銀行による政策金利の緩和（利下げ）およびドル安を期待したい。

アルミ

F RB（連邦準備制度理事会）の利下げ観測が強まるにつれドル安基調へ転換し、コモディティ価格全般が買われやすい環境だとみ

6月のアルミ生産量（板類・押出類合計）は同1・4%減の14万2772トとなり、前年同月比で3カ月連続のマイナスだった。

6月のアルミ二次合金・同合金地金生産は同6・9%減の5万7390トで、5カ月連続のマイナス。アルミ二次合金・同合金地金出荷は同4・8%減の5万7543トで、11カ月連続のマイナスだった。

輸出はアルミ新地金が同29・7%増の240ト、アルミ二次合金が同14・7%減の810ト、アルミスクラップが同23・1%増の3万1927ト、アルミ缶が同12・7%減の670ト。輸入はアルミ新地金

が同11・4%増の9万4451ト、アルミ二次合金が同11・7%増の8万6490ト、アルミスクラップが同25・9%減の532ト、アルミ合金スクラップが同4・8%減の680トだった。

アルミスクラップ景況予想

アルミスクラップは供給面では円高を背景にやや緩和傾向。一方、需要面では合金地金生産の回復と政策支援による下支えが見られる。

総じて需給バランスは安定からややタイト気味で推移、価格も横ばいから上昇圧力も含む状況だと予想している。

8月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ 現物後場買い	2550~2650 ^{ドル} (現物後場買い)	強い
スクラップ	プラス5~10円 (前月最終価格より)	強い



橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

8月銅市況予想レンジ

LME銅セトルメント	9800~10500 ^{ドル}	横ばい
電気銅建値	146~154万円	横ばい
為替（1 ^{ドル} ）	146~154円 (1カ月間TTM)	横ばい